



千八百七十八年六月八日横濱「ゲヤ」のシ、タ井ムス新聞抄譯

日本貿易銀ノ論



局



114  
A1760

大正十一年四月  
天隈侯爵郵寄贈

兔頭悌二郎譯



新聞抄譯

日本貿易銀ノ論

吾儕ハ本日ノ紙上ニ於テ殊更日本ノ一新紙ナル中物價新報子  
ノ論說ヲ写出シテ讀者ノ陶覽ニ供ス讀者幸ヒニ一読セヨ抑モ  
其論スル所ハ彼四百二十ダレインノ量目ナル貿易銀ノ輩ニ関  
スル政府ノ處置ニ付キ暗ニ政府ノ内諭ヲ受ケテ之ヲ守護ス  
ルモノニシテ将来尚ホ政府カ此事ニ付テ施行セント企ツル所  
ノ政畧ヲ指示セシモノタルハ吾儕カ方々了知スルニ由アル所  
ナリ

吾儕ハ時ヲ求メ機ヲ待テ日本政府ノナセシ事々物々ニ付キ徒  
ラニ之レヲ讒言誹謗セシテラ望ムノ輩ニアラズ吾儕ヲ以

大正十一年四月

テ此輩ト同一視スハカラス吾儕ハ實ニ之レ  
意ナキ而已ナラス却テ日本政府ハ其國ノ為メ其人民ノ為メニ  
公益ヲ計ラントシテ誠實ヲ尽クシ熱心奮發スルアルハ平素吾  
儕ノ固ク信スル所ナリ  
然ルニ不幸ナル哉凡ソ世ノ中ノ事タルト申ノ八九迄ハ熱心奮  
發ノ情厚キカ為メニ却テ事ノ遠度ヲ夫ハ抵角保護ノ意ニ出テ  
タルモノモ之レカ為メニ却テ保護ノ實ヲ誤リ易キモノナリ今  
近ク例ヲ引テ之レヲ証メンニ吾儕ヲ以テ之レヲ觀ルニ日本政  
府カ其造幣局ノ事ニ就テ舉行セシ處置ノ如キハ恰モ勝チヲ得  
ルモ褒美ヲ付与セサルノ競馬ニ臨ンテ熱心以テ打勝ント欲ス  
ルモノト同例ナルニ似タリ  
日本政府カ誤テ斯ノ如キ處置ヲ施セシハ敢テ吾儕ノ遺憾トセ  
サレ所ニアラサレモ吾儕ハ此舉ニ付キ苟モ驚愕ノ情ヲ發セサ

魚ノ三

ル而已ナラス又以テ其レハ足ラサルモノナリトス  
其然ル所以ノモノハ他ナシ譬ハ大藏卿ハ自リ其同僚有司  
輩カ成ルヘク丈ケ速カニ嘗テ造幣局創業ノ際ニ当リ雇入レタ  
ル高給多費ノ外國人ヲ解放免黜シテ以テ自ツカラ鑄造ノ業ニ  
従事セント欲スルハ是レ實ニ左モアルヘキトニシテ御九千萬  
ノ至リナレハナリ  
實ニ今ヤ其技術師其職工等能ク技ニ長シ術ニ練レ最早外國人  
ノ手ヲ待タス自ツカラ機械ヲ製造修理スルニ足リ仮令ニ秤量  
機ノ如キ最モ精細ノモノト雖モ能ク之レヲ製造シ極印彫刻ノ  
事業其外等ニ至リテモ皆ナ是レ内國職工ノ手ニ成リテ一モ外  
人ヲ俟タサルニ至レリ  
日本政府ノ有司輩カ曾テ其造幣局創立ノ際ニ當リ其首長トモ  
シ外國人ヲ記者終スルニ外國人ト前造幣局首長タリレマシ

ヨル、キンドル氏ヲ告ス、  
幣局ノ信義ニ弱レ各聞ヲ墜ス所アルヲ察知スルアタハサリシ  
ハ決シテ驚愕スヘキ事項ニアラス又令尚ホ支那高估オク外國  
人ノ保証ナケレバ日本ノ貨幣ヲ受諾スルヲ嫌忌スルカ爲メ  
ニ日本ノ有司輩カ之レヲ怒ルハ御尤ノヲニシテ是レ又吾儕カ  
驚愕シアタハサル所ナリ其然ル所以ノモノハ他ナシ目今造幣  
局ノ職工輩カ技ニ長シ術ニ練レ實ニ信任スルニ足ルノ跡ハ  
再三外國ノ試験分析ヲ經テ判然タレハ支那人ノ之レヲ嫌忌ス  
ルヲ憤ルハ当然ナレハナリ

嘗テ日本政府カ初メテ新貨幣ヲ鑄造テラル、ニ當テヤ有司輩  
ノ中ニ就キ賢明ノ士兩三名ヲ選抜シ廣ク政米造幣ノ狀況ヲ視  
察シ實地ニ就テ得ル所アラシメメンカ爲メニ之レヲ彼ノ地ニ派  
遣シメタル後予此輩ノ返朝スルニ及シテ説ク所ノ竟見皆誤

後ノ四

認ニ出テサルナカリシ、且 自然ノ幣勢ニシテ御尤至極ナリ  
蓋シ造幣ノ事ハ教師自ツカシ其理解セタル所ノモノヲ學生ニ  
教授シ學生其知ラサル所ノモノヲ他人ニ説キ示ス所ノ一学科  
ナリト。是吾儕カ是迄聞知シ得タル精理學ノ定論ニシテ此説タ  
ル實ニ一目解シ易キモノナリ

實ニ造幣ノ事タル其國ノ事情ニ依リ其國ノ関涉利害如何ニ隨  
ツテ大ニ異ナルヲ(按スルニ英國ハ金ノ單位ヲ用ヒテ利アル  
モ又那地方ハ之レヲ用ヒテ益アラナルカ如キ模様ニシテ英國  
ノ利アルモ必ラス日本ニ利アルモノニアラス)其國其土地ノ  
状態ニ依テ異ナルヲ云フナラン)ヲ考察スレハ嚮キニ遠ク歐  
米へ渡航シ經濟上ノ真理ヲ求メントセシ單カ素志ヲ全フシ真  
理ノ如何ヲ辨知スルヲ空シク飯朝セシハ決シテ驚クベ  
キトニアラス

畢竟日本政府カ評カ。顧カ。此輩ヲシテ所見ヲ露セシ  
メタルニ其説ク所各ナラス甲ハシラ駁シ乙ハ丙ヲ撃テ何レ  
モ僻論愚見タルニ過キサレハ其執レテ以テ是トシ執レテ以テ  
非トスルカ可否ヲ判スルニ由ナキカ故ニ其集収セシ諸説中ニ  
同意ノ多数ナルニ依リ金貸ヲ以テ本位ト為ヌノ論ニ決スルニ  
至リシハ實ニ勢ノ然ラシムル所ナレハ御尤千万ノト云フヘ  
シ  
日本政府ク斯ル夫錯過失ニ墜リシハ全ク委員ヲ殊更ニ海外ニ  
派シ其造幣ノ狀況ヲ視察探知セントセシニ在リヤ固ヨリ論  
ヲ竝タス  
斯リ遠ク海外ニ委員ヲ派シテ其造幣ノ狀況ヲ視察探知セント  
シ勞ヲ空フセサルモ近ク當レニ在リテ其頃東洋銀行ノ支配人ク  
リシ「ジョン・ロベルトソン」氏ニ實ニ其任ニ堪ヘ人トナリ忠實

原ノ五

正直ノ士ニシテ信用委  
スヤ  
抑モ「ロベルトソン」氏ハ此國ノ事々物々ニ付キ多年久シク熟達  
經驗ノ效アル而已ナラス實地目撃セシ所ノモノ鮮少ナラサリ  
シヲ以テ日本ノ理財上ニ執リテハ無比ノ良顧問ナリ蓋シ日本  
理財ノ事ニ付テハ理論上ニテモ實際上ニテモ能リ其事ニ通曉  
レ日本ノ為メニ實益アルノ顧問ハ彼令々幾許博識多才ノ士ト  
虫モ「ロベルトソン」氏ニ及フモノナカレヘシ  
試ミニ往年ニ逆リ孰々「ロベルトソン」氏ノ人トナリテ願レハ之  
レヨリ前キ千八百六十九年ニ當リ或カ金一件ノ事ニ起リシ節  
全氏ハ当地ニアル外國銀行高會等ト断然説テ異ニシ論ヲ同フ  
マスレテ当地ノ商法會議所ト爭論ヲ開キ此際偶々英國公使ノ  
深ク補助スル所トナリ以テ  
ノ為メニ毫末銀氣三百萬ノ出

費ヲ省キレ一大奉ヨルテ此  
人物タルヲ確証明徴スルニ足レリ  
嚮キニ大坂造幣局創業ノ時ニ当リ「ロベルトソン」氏カ日本政府  
ニ忠告セシ所ノモノハ量目差ニ性合トモ両ツナカラ洋銀ト同  
等同一ノ銀價ヲ鑄造メンカ為メナリ實ニ同氏ハ此事ニ付テ政  
府ニ忠告セシノミアラス尚且ツ其貨幣ヲ創製シテ廣リ東洋  
諸國ノ合法貨幣トナシカ為メニ支那其他ノ諸地方ニ於テ日  
本政府ノ為メニ周旋尽力セシ「實ニ鮮以テラサリシテ」若シ  
日本政府ガ宜シク「ロベルトソン」氏ノ忠告ヲ用ヒ「彼レク言ノ如  
ク固ク守リテ動カザリシナハ迅速好結果ヲ生シ来リタルヘキ  
ニ惜哉政府ハ逆リノ忠告ヲ用ヒスレテ之レヲ「高麗ノ遠フキニ  
求メタリ是レ吾儕カ最モ遺憾トスル所ナリ」  
然レ「吾儕」ハ日本政府ノ「忠告」ニ付テ日本政府ニ忠告「レ輩

吾儕ノ天

ト從ヒニ爭論ヲ開キ筆戰ニ入ルノ理由ナク只二三ノ豆米利  
加理財家ノ忠告ニ付テ説ア「而已蓋レ此輩ノ如キハ只垂米利  
加ノ利害得失而已」計「米ニ益アルハ日本ニ利アラサルモ敢  
テ願慮セサル見込」ヲ以テ日本政府ニ説キタルカ故ニ今現ニ日  
本ノ國益ヲ傷害スルモノナリ  
曾テ日本政府カ此輩ニ下問スルニ当リテヤ深ク國狀ヲモ察セ  
ス又前後ヲモ顧ミスレテ後ヲニ疑問ヲ此輩ニ質シ此輩モ亦其  
國体具外ヲ推究セシテ詰リ「貿易交換ノ媒介タル金銀二者ノ  
中ニ就テハ金ヲ以テ取ムヘキモノトスル」ヲ應答セシ迄ナリ  
但レ金銀二者ノ中ニ就キ金ヲ擇ムノ説ハ是レ「凡ソ理財家タル  
者」皆同意ナル所ナリ  
斯ク「蒼卒」ノ問答ヲ遂ケ日本支那其他東洋ノ貿易上ノ利害得失  
ホニ付テハ問者モ「答」者モ「問」者モ「視察セサ」リ「曾テ我英

國政府カ其所屬ナリ米印  
ト欲レテ其計畫ノ成ヲサリシハ一目瞭然ノトト云凡全ク有司  
輩ノ視察スル所トナラサリシナリ

斯ノ如キ狀況ニテ欧米人ノ説ク所ハ金ヲ良シトスルノ論多ク  
キヲ吾同業ナル東京「イコ」ノミスト新聞(按スルニ中外物價新報  
ヲ指スナラン蓋シ英國倫敦ニ倫敦「イコ」ノミストト唱フル一種  
ノ新聞アリ重モニ經濟上ノ事ヲ論及スルニ今又中外物價新報  
ト論スル所重モニ經濟上ニ涉ルヲ以テ「イコ」ノミストト即テ經濟  
新紙ト云フナラン)記者ガ論スル所ノ如クナルカ故ニ日本ニ在  
テ金貸ヲ以テ本位ト定メレナリ

抑モ日本政府カ大阪ニ造幣局ヲ創立シ初メテ金貸ノ鑄造ニ從  
事セシヨリ其鑄造ノ局ヲ終ニシ迄日本金貸ノ事蹟如何ヲ顧ミ  
レ、實ニ片時モ災害ト損ニ被ムラサリシ守コソナリシ

ナ  
然ルニ若シ日本政府カ其金貸而已ヲ以テ單位ト定メ置キタラ  
シニハ今日現ニ之レヲ本位ニ立テ永續保存スルヲ得ル而已ナ  
ラス尚ホ且ツ英國カ其所屬ナル印度臣民ニ向テ至緊至要ノ違  
例トシテ相ニ祝シ相ニ賀スル所ノモノヲ世上ニ示スナラ得タ  
ルナランニ惜我今マ其事成ラスレテ條約上ノ本位貨幣ナル洋  
銀ハ既ニ久シク取引上ノ通貨トナリ其慣用ノ久シキヨリ自然  
流通ノ道モ廣キカ為メニ有益ノ位置ヲ占有シ日本金貸ノ如キ  
ハ未ダ曾テ機會ニ遭遇シ幸運ヲ得サリシナリ  
今日ノ狀況既ニ斯ノ如クナリシニ今日又四百二十「ゲレ」シノ  
量目ナル貿易銀ヲ發行シテ第三ノ合法貨幣(按スルニ第一ノ合  
法貨幣ハ金貸第二ハ圓銀ナラン)ト定ムルニ付キ日本政府ハ向  
後金貸ヲ鑄造スルヲ廢スルニ意アル由キ暗ニヤ外物價新

報ヲ以テ吾儕ニ告ニスルハアリトス  
斯ク金貨ノ鑄造ヲ廢止スルモ可ナラン然レモ尚ホ日本ノ本位  
貨幣ハ戴個ノ依然相存スルアリ是ニ由テ之レヲ觀レハ日本政  
府ハ種々ノ方畧ヲ運ラレ以テ其目的ヲ達セント欲スルモ以前  
ヨリ少レモ其目的ヲ達スルノ道ニ近ツキタルト之レナシ蓋シ  
其目的トスル所ハ東洋諸國ニ於テ洋銀カ貿易ノ媒分タルヲ廢  
レ更ニ日本貨幣ヲ以テ之レニ代用セントスルニアリ  
夫レ然リ然レモ前号既ニ吾儕カ登録シテ世ニ公示シタル所ノ  
布告アルハ實ニ吾儕ノ為メニ非常ノ便益ナリト云フベシ其故  
何トナレハ吾儕ハ今初メテ吾儕新聞記者ノ論議ヲ明示シ吾儕  
ノ嚮キニ論辨セシ所ノモノ果シテ實事ナルトヲ公示スルヲ以  
テ最早今日ヨリ以後ハ此等ノ付キ後ヲニ流言浮説ニ抗シテ筆  
戰言闘セサレハナリ

蓋シ日本政府カ今度ノ處ニ至リタルハ畢竟左ノ件々ニ妄信  
セシカ故ナリ請フ之レヲ左ニ述ヘン  
合衆國ノ貿易銀ハ又那其他述傍ノ諸國ニ於テ好シテ之レヲ授  
受セサルト東洋諸國ノ貿易上ニ於テ要スル洋銀ハ之レヲ給  
備スル本源(按スルニ米國ヲ指スナラン)ト又那ノ間甚々隔離ス  
ルカ故ニ卒素其需用ニ應スレズ充テタル金額ヲ容易ニ備フ  
ルトアタハサルト英國政府ク香港ニ其造幣寮ヲ再設スルノ  
議ヲ嫌忌シ又本國ノ造幣寮ニ於テブリチツレドル(英國ノ  
弗ト云フ義ナリ)ヲ鑄造スルトモ好マサルト是レナリ  
以上說リ所ノ諸件ノ外ニ尚ホ日本政府ハ二三ノ外國銀行者先  
ニ外高等ク間接ニ日本政府ヲ助ケ其貿易銀ヲ以テ東洋ノ合法  
貨幣トナサンカ為メニ周旋尽カスルトヲ妄信スルノ色アリ日  
本政府ハ此等ノ諸件ヲ妄信シテ其貿易銀ハ東洋諸國ニ



アル諸貨幣ヲ壓倒シ獨リ  
至ラシトテ期スト云フハ御元ノ誤ナリ  
實ニ日本政府ノ誤解斯ノ如ク夫レ甚タレカリレ中ニ稍々實説  
トスヘキモノ一ニアルアリト雖モ多クハ暗然ラス依テ今左  
ニ逐條之レヲ論セシ

夫レ亞米利加貿易銀々支那ニ地位ヲ占メ其通貨トナルヲ得カ  
ル所以ノモノハ則チ今日日本政府カ幾百万ノ貿易銀ヲ鑄造シテ  
支那ニ流通セシメント欲スルモ沃シテ能ハサルトテ未タニ日  
本ノ理財家カ通曉レ得ザル所以ノ理由ト全様ノ誤アリ況レテヤ  
其貿易銀タル洋銀ヨリ一層良貨ナルニ在テハ殊ニ以テ然リト  
ス(按スルニ米國ノ貿易銀ハ四百二十「ダレ」ノ量目ヲ以テ鑄  
造シ支那地方ニ流通セシメリシト雖モ自他ノ貨幣ニ比スレ  
ハ倍々ニ付三四「ダレ」ノ量目多クカレラ以テ人皆之

レ誤解シ地金トナレ決レテ流通セザリレ一付日本ノ貿易銀  
モ洋銀ホニ比スレハ三四「ダレ」ノ量目多クキカ為メニ今  
亦其同轍ヲ履ムト云フナラン)  
洋銀ノ供給給備タル其需用ニ應スルニ足ラスト云フ々如キハ  
純然タル誤解ナルト固ヨリ論ヲ誤タス蓋シ此誤解ヲ来タセシ  
所以ハ今ヨリ二ヶ年以前生糸取引ノ時ニ當リ買主等不意ニ許  
多ノ買込ミヲナレ為メニ巨額ノ洋銀ヲ急需スルニ臨ミ六週日  
ノ間之レカ需メニ應スヘキ洋銀ナカリレ時為換相場不意ニ騰  
貴セシ一挙ニ由ルナラン  
英國政府カ支那ニ通用セシムルカ為メニ「ブ」リチツレ「ドル」  
賃ヲ倫敦ノ造幣寮ニ於テ鑄造スルトテ嫌忌セシト云フハ是レ  
實説ナリ然リト雖モ若シ日本造幣局ニ於テ今世人ノ要求スル  
貨幣鑄造セサルヲハ三「ダレ」ノ量目多クカレラ以テ人皆之

英國 市都ニレテ専ラ  
業ニ從事シ倫敦ヲ距ツル百  
有餘英里ナリ)若レクハ又其他資財ノ輻輳レ興業ノ盛大ナル場  
所ニ於テ造幣ノ業ニ着手スルアラン現ニ西貢ニ一造幣寮ヲ開  
設スル旨建議中ナリト云フ  
叔又外國銀行並ニ外高輩ク日本貿易銀ヲ以テ支那地方ノ通貨  
トナサンク為メニ周旋尽カスルト云フカ如キハ是又誤鮮タル  
ヲ免レス

曾テ前ノ東洋銀行ノ支配人タリシロベルトソン氏ク日本政府  
ニ忠告シ以テ東洋ノ通貨トナサントセシ債幣ハ円銀ニシテ其  
図形ヲ除ノ外ハ總テ洋銀ト全様ノモノタリ唯図形ニ於テハ円  
銀ノ方洋銀ヨリ優リタル所アリシ而已  
目今東洋ノ貿易上ニ於テ要用トスル所ノ債幣ハ則チ此円銀ニ  
シテ此債幣エソ外高等カ東洋ノ通貨トナサンク為メニ周旋尽

カスル所ノモノナリ  
日本政府カ以上吾儕ノ説ク所ニ信服シ大夜造幣局ニ命シテ円  
銀ヲ發行スルニ至ル迄ハ日本債幣カ洋銀ノ位立ヲ占メ代用マ  
ラルニ至ルヲ希望スヘカラス  
叔又中外物價新報記者ノ論說中末文ノ一疑問ナル新貿易銀ヲ  
以テ洋銀ヲ壓例レ当横濱ニ之レカ流通ヲ絶ツノ道如何ト云フ  
カ如キハ吾儕ノ為メニ討論ノ勞ヲ費スヲ要用トマサルヲ懼ル  
ナリ其故何トナレハ仮令ヒ幾万ノ貿易銀ヲ鑄造シテ洋銀ヲ逐  
出サント欲スルモ貿易銀ノ量目過タルカ故ニ支那地方ニ流  
通セサルカ如ク亦日本ニ於テ通用セサルト回ヨリ論ヲ竣サレ  
ハナリ尤モ吾儕ヲ以テ之レヲ觀ルニ寧早日本政府モ今日ノ如  
キ全様ノ貿易銀ヲ巨額鑄造セサルニ似タリ  
吾儕ハ日本政府ヲ警近内閣ノ公債募集ノ事業成ラシメテ日本

政府ニ望ムルヲ得ル蓋シ固ニ増加ノ勢ニシテ視レハ兎ニ角  
正金ノ準備尽キ果テタルカ如シ  
目下政府發行ノ紙幣ヲ人民ノ固ク信シテ授受スルハ實ニ日本  
政府ノ為メニ幸福ト云フヘシ又米穀ノ秋収平均ヨリ上ニ出ツ  
ルト止マサル間ハ吾儕ヲ以テ之レヲ視ルニ日本政府ハ外國債  
ノ利子ヲ拂フニ於テ難キトアルノ恐レナシ  
輸入ノ輸出ヨリ過多ナルハ是レ畢竟日本ク輸出品ニ就テ莫大  
ノ所得ヲナスノ確証ナリ又一片ノ紙幣ヲ以テ金銀全様ノ食物  
ヲ購買シ金売田モ銀売田モ紙幣売田モ買フヘキ品物ニ於テ多  
寡ヲ生セサル間ハ内國貿易上ニ於テ自他ノ貿易媒介物ヲ要セ  
サルナリ  
斯ノ如クナレハ内國ノ貿易ハ紙幣ヲ以テ足り外國貿易上ニ於  
テ目下流通ノ洋銀ヲ以テ充テタルニ似タリ

吾儕ハ一層鞏固不易ノ貨幣ヲ欲スルヤ固ヨリ論ヲ竝サレハ  
レテ之レヲキカ為メニ大ニ害ヲ被ハルナリ  
鞏固不易ノ貨幣ヲキカ為メニ害ヲ被ハルト之レアリト虫氏彼  
洋銀鑒定料ハ重モニ日本人ノ出ス所タルヲ以テ吾人雇入レノ  
支那人ヲ使役スルニ當テ大ニ低賤ノ給料ニテ之レヲ雇使ス  
ルヲ得ルナリ又吾人ハ洋銀ヲ以テ立テ行キ難キニアラスト虫氏  
又之レヲ以テ満足スルニモアラサルナリ  
然リト虫氏若シ日本ニテ洋銀ノ弊害ヲ免レントテ欲シ而シテ支  
那ニ於テ墨西哥カ貨幣ニ付テ得ル所ノモノト競争シテ效アラ  
ントテ欲スルアラハ日本政府ハ断然四百二十ヶゲレインノ貿易  
銀ヲ鑄造スルヲ思フ素絶レ第十二第十三ノ兩布告中貿易銀ノ  
三字ヲ廢シ更ニ四銀ノ二字ヲ入レ替ヘスハアルベカラズ蓋  
シ此ノ舉タル行フト速カナル程関涉ヲ有スル者ニ

執  
リ  
テ  
一  
層  
ヨ  
ロ  
ビ  
キ  
ヲ  
加  
フル  
ナ  
リ

